

クレア派遣レポート Vol.3 ～中国の今～

一般財団法人自治体国際化協会
北京事務所 田村 佳利（農林技師）

〇はじめに

前回Vol12で隔離経験について紹介してからしばらく期間が空いてしまいましたが、今回は「中国の今」と題して、中国・北京での生活の実情について紹介をしたいと思います。

1) 中国国内における新型コロナウイルス感染概況

Vol.2でお伝えした通り、中国に入国するためには非常に厳格な措置が取られていることもあり、国内での感染症例は非常に少ない状況が続いています。少し古いデータにはなりますが、下の表でも分かる通り、感染症例のほとんどが国外からの輸入症例となっており、中国国内での感染拡大はしばらく起きていない状況です。国内症例については、かなり厳しく対策を講じており、5月末頃から広東省でデルタ変異株を含む国内症例が増加した際には、いくつかの地域が高リスクまたは中リスク地域^{注)}に指定され、移動等が制限されました。

注) 中国では、感染状況に応じて、各地域を低・中・高リスク地域のいずれかに分類し、国務院がその情報を公開しています。このリスク評価は省級レベルの政府によって行われ、北京市の場合、「北京市新型コロナウイルスリスク分類基準」に基づき、北京市疾病予防・管理センターが市内各地域のリスク評価を実施しています。「北京市新型コロナウイルスリスク分類基準」では、14日以内に新規クラスター感染が2例以上確認された地域あるいは5人以上の新規感染者が確認された地域を「高リスク地域」、14日以内に新規クラスター感染が1例確認された地域あるいは2人から5人までの新規感染者が確認された地域を「中リスク地域」としており、「高リスク地域」に指定された区域においては、国務院が令和2年9月に策定した「新型コロナウイルス肺炎の予防・抑制規則（第7版）」第六条第（三）項目の4により、封鎖を実施し、人々の出入り等を制限することができるとしているほか、当該封鎖区域において14日間新規感染者が確認できない場合には封鎖を解除することができるかと定めています。

ちなみに、北京市政府は中高リスク地域からの入京を原則不可としており、出張等の行き先が中高リスク地域に指定された場合は、急遽、出張を取りやめる等の手配が必要となることもあります。

中国国内における感染者数の推移

(青：輸入症例 赤：国内症例 ※無症状感染者は除く)

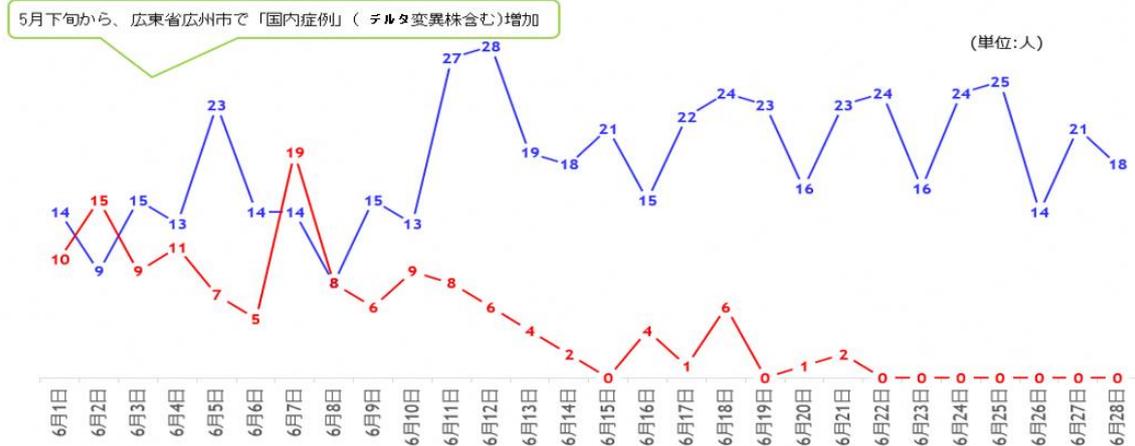


表1. 中国国内における新型コロナウイルス感染者数の推移 (6月)

(※中国国家衛生健康委員会HPより資料作成)

表1. 中国国内における新型コロナウイルス感染者数の推移 (6月)

(※中国国家衛生健康委員会HPより資料作成)

2) 中国のワクチン接種状況等

中国国家衛生健康委員会によれば、6月30日までの中国全土の新型コロナウイルスワクチン接種回数は12億回にのぼり、1月あたり約5億回伸びている計算になります。また、北京市、天津市、海南省等一部の都市での18歳以上人口接種率は80%を超えていると報じられています。国家衛生健康委員会は「感染リスクの高い港湾都市、辺境市区、大中都市、過去に感染が広がった地区から優先的に接種を進めている」と説明しており、都市部などでは接種をより進めるため、買い物券やお米を接種の特典として付けるなどしている地域もあるようです。実際に私と一緒に働く中国人スタッフからも「お米がもらえた」などと言った声も聞かれるほか、特に子供を持つ親世帯では、ワクチン接種に係る学校からのプレッシャーなども感じているといった声も聞かれました。ワクチン接種は、3月下旬以降、外国人も対象となっており、外国人対応の医療機関に予約を入れれば、無料で接種することができます。実際に私の職場でも数名が既に2回の接種(シノバック不活化ワクチン)を終えています。

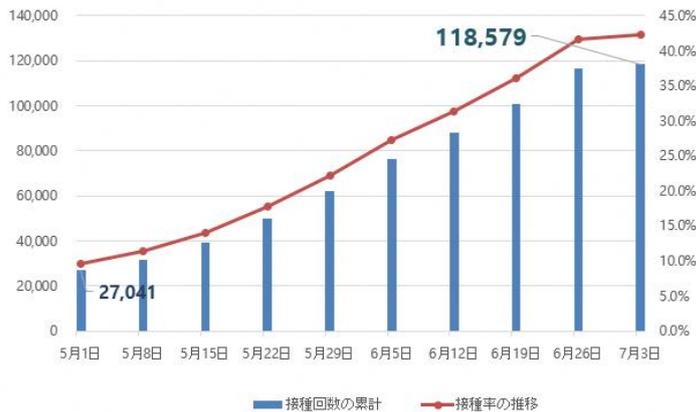


表2. 中国国内におけるワクチンの接種状況

※接種回数は中国国家衛生健康委員会HPを参照して作成

※接種率は[(接種回数÷2)÷14億人]×100%から算出

そのほか、大きな会議等に参加する際などには14日以内のPCR陰性証明の提出を求められることがあります。北京市内ではPCR検査を受検するのも非常に簡単です。市内にPCR検査場所がいくつかあり、アプリでチケットを購入すれば、いつでも検査を受けることができ、24時間以内に結果がスマホに送られてきます。先日私が受検したのは1回80元（日本円で約1,300円）のPCRでした。チケット購入後は、チケットの使用期限内に検査場所へ行き、購入した電子チケットを係員に提示し、当日、パスポート番号や年齢など個人情報を登録すれば、簡単に受検できます。



ワクチン接種を受けるともらえるバッジ



街中にあるPCR検査場所



アプリで購入した電子チケット

3) 北京での日常生活

Vo1.2でも紹介しましたが、中国国内では各省や市指定のアプリケーションで健康状態や移動歴が管理されており、このアプリケーションで提供される「健康コード」がないと入ることのできない施設が多くあります。北京市の場合は「健康宝」というアプリケーションを利用しており、コードの色が「緑色」（以下、グリーンコード）でないと施設への立ち入り等ができなくなります。例えば、私の

住んでいるマンションや私が働いている職場があるビルも入る際にこのアプリケーションで各施設のQRコードを読み取ることで入室の記録をし、それによって表示されるグリーンコードの提示をしないと係員に止められ、中に入ることができません。また、同時に検温もされており、37.5度以上の熱がある場合も立ち入りが認められません。

そのほか、地下鉄に乗る際についても紹介します。地下鉄では乗車時等、グリーンコードの提示は求められていませんが、駅構内に入る際には金属探知機の通過と同時にサーモセンサーで熱も測られており、異常があれば止められます。また、地下鉄の車内には警備員がおり、マスクをしていなかったり、鼻がマスクから出ている乗客がいた場合はすぐさま注意をされます。

入国時だけでなく、中国国内でもこのような管理下に置かれますが、こういったルールさえ守っていれば、大規模な会議やイベント、飲み会なども特に制限なく行える自由があると大きなメリットとなっています。



公共施設等に入る際のチェック
(右は「健康宝」グリーンコード表示画面)

地下鉄に乗る際のチェック



「健康宝」にはPCR検査結果やワクチン接種記録なども紐づけられる
(左：PCR検査結果（陰性）、右：ワクチン接種状況（未接種）)



中国国内でのイベント実施状況（5/15-16 蘇州ジャパンプランド@鳥取県ブース）
（※中国国内では対面の大規模イベントも制限なく実施できている）

4) あらゆる面で進む電子化

中国では生活のあらゆる場面にモバイル決済が浸透しています。アリペイ（支付宝）やウィーチャットペイ（微信支付）などのモバイル決済アプリはあらゆる場所で利用されており、コンビニやスーパーマーケットなどでの買い物はもとより、地下鉄運賃や家賃からPCR検査代に至るまで、あらゆる代金がモバイル決済を利用して支払うことができます。レストラン等に入ってもメニューが置かれていることは少なく、テーブルに貼付けてある2次元バーコードを読み取ることで、メニュー画面が表示され、そこから注文、支払いまで完結できます。中国では財布はもはや必需品ではなく、常にスマートフォンを持ち歩いている生活が不便に感じられるほどに、当たり前前の支払方法としてモバイル決済が浸透しています。もちろん現金も使用できますが、釣銭を十分に用意していない店舗（個人商店など）もあるのでモバイル決済が利用できないと非常に不便です。

また、中国ではレンタサイクルも非常に便利です。街中の至る所にレンタサイクルが置いてあり、自転車に貼付けてあるQRコードを専用アプリで読み取ることでロックが解除され、乗ることができます。利用料金も30分で1.5元（約25円）と非常に安いほか、決まった場所に返却する必要もない（駐輪禁止区域もある。GPSで位置情報が取得されており、駐輪禁止区域ではロックがかからず、利用後の決済が完了できない仕組みになっている。）ため、多くの人が利用しています。



レストランの注文用QRコード



街中に置かれたレンタサイクル



レンタサイクル利用方法（右の専用アプリでQRコードを読み取るとロックが解除される）
（以上、今回はここまで）